

「今、なぜロースクールで学ぶのか ☆列島縦断リレー☆法科大学院がわかる会  
2015」

東京会場① 2015年7月4日@弁護士会館クレオ BC

来場者の声

(来場者1)

各種報道で法科大学院についてネガティブな記述が目立っている中で、「わかる会」では、法科大学院についてどのような面が見られるのか、という点に特に興味を持って参加させていただきました。

まず、「わかる会」では、卒業生の方の話が印象的でした。法曹として必要な事案分析の能力、法律問題における思考能力、それを相手に伝えるコミュニケーション能力等が鍛えられることが法科大学院教育の長所としてあげられていました。コミュニケーション能力、というのに関連して、裁判官や検察官の先生が上司と意見が合わなかったときに、意見を戦わせてなぜ合わないかを理解しようとしめない人は法曹に向いていないと話をされていて、紙媒体に残らない部分でもとても大切な能力だと教えていただきました。

予備試験ルートとの比較は容易ではない問題ですが、上記の能力の鍛錬というのも踏まえ2年間、あるいは3年間ここで勉強した人間が社会に一定数排出されることはそれ自体が大きな価値を有していると感じました。また、法科大学院卒業生は法科大学院での教育に少なからず意義を有していると感じている方が多く、少なくとも若手の法曹関係者では同様の価値を感じている人は多いのではないかと思います。

また、法科大学院の苦境とあわせて報道のなされる法曹界全体の仕事が減少しているのではないかと、という点についても、実務に出て数年経つ方々に聞くことができました。その中で弁護士の先生方は多様な仕事をされていたのですが、多様な仕事をしている、というのは多様な仕事がある、というよりは何を仕事にしていこうかを自分で考え、自分が先駆者となって道を作っていく先生が何人もいて、仕事について楽しそうに語っていただきました。もちろん法曹界全体としての仕事の量は個々の先生のお話ではわかりませんが、仕事の幅は決して狭くないと考えている先生が多いと思いました。

従来 of 脱却すべき教育が覚えて吐き出す、というのに比較していえば、法科大学院で目指している、自分で考え、動き、それらを他者に伝え、他者の考えを引き出して自分で考え直していく、という法曹の足腰ともいえる部分の大切さを教えていただけた会だったと思います。

(来場者2)

家族の紹介でこの企画の存在を知り参加したのだが、とても有意義なものであった。

この説明会は2部制であり、前半は法科大学院に現在在学している人や、院を卒業され法曹界で活躍されている方々のお話などを聞き、後半は各大学院の個別ブースが設けられ質疑応答ができるというものであった。

前半での院在生のお話の中では、院を志望するに至った理由、院での学生生活や学部と院の違いなど、院在生目線ならではの話を聞くことができ、それは現在学部2年生である私にとって最も聞きたいことであり、とても参考になった。

後半部では、進学を考えているいくつかの大学院の個別ブースにて、より詳細な話を聞くことができた。また最後には、前半でお話されていた裁判官、弁護士、検察官の方々と直接お話するというとても貴重な体験に恵まれた。そのとき、ただ仕事内容だけでなく、仕事をするうえで求められるものや体験談などを聞かせていただいた。これらの話は調べればわかるというものではなく、直接お話ししないと分からないものであり、そうした意味でも大変貴重な体験であった。院に進学することの意義、院を卒業した後の仕事についてなど様々なことがわかりとてもためになることばかりで、4時間があっという間に過ぎてしまった。